



カケハシ・プロジェクト（米国） オンライン訪日（日本で働く・JET）フォローアップ事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

本プログラムは、カケハシ・プロジェクトの参加経験者（同窓生）を対象に、日本における就業に必要な情報を知り、日本で英語教育に携わるカケハシ同窓生と交流することで、対日理解の促進、日本への関心の拡大活動及びネットワーク活動を促進することを目的として実施しました。あわせて、同窓生同士の交流、意見交換を通して同窓生ネットワークの強化を図りました。

【参加者】米国（2024 年度までのカケハシ・プロジェクト参加の同窓生）合計 21 名
（内訳）米国 21 名（大学生・大学院生 3 名、社会人 18 名）

【訪問地】愛媛県

【日程】

■ オンライン同窓会：2026 年 2 月 17 日（火曜日）

1. 開会
2. 挨拶

外務省 北米局 北米第一課 原田 清太郎 外交実務研修員

3. 【講義】「グローバル人材を取り巻く日本の雇用環境」

講師：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）多文化共生事業部 玉野 衣梨果 氏

4. 同窓生によるプレゼンテーション

「JET プログラムの ALT^{（注）}として日本で働くということ」

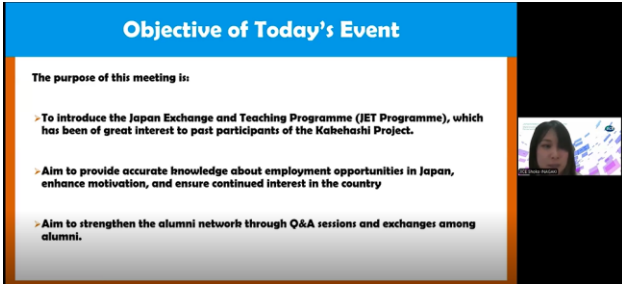
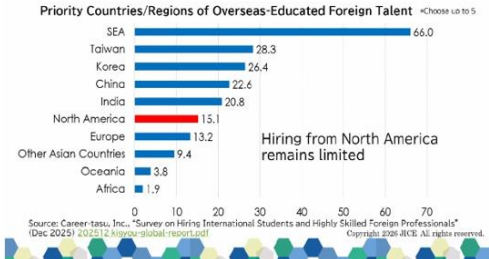
（注）JET プログラム：「語学指導等を行う外国青年招致事業」（The Japan Exchange and Teaching Programme）の略称、ALT：外国語指導助手（Assistant Language Teacher）の略称

発表者：カケハシ・プロジェクト同窓生（2019 年度 日系人青少年招へい第 1 陣）

ライアン・オカザキ 氏

5. 質疑応答
6. 記念撮影
7. 【交流】カケハシ同窓生ネットワーキング（グループにわかれて交流）
8. 参加者への案内、閉会

2. 記録写真

 Objective of Today's Event The purpose of this meeting is: - To introduce the Japan Exchange and Teaching Programme (JET Programme), which has been of great interest to past participants of the Kakehashi Project. - Aim to provide accurate knowledge about employment opportunities in Japan, enhance motivation, and ensure continued interest in the country - Aim to strengthen the alumni network through Q&A sessions and exchanges among alumni.	 Priority Countries/Regions of Overseas-Educated Foreign Talent (Choose up to 5) <table border="1"> <thead> <tr> <th>Country/Region</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SEA</td> <td>66.0</td> </tr> <tr> <td>Taiwan</td> <td>28.3</td> </tr> <tr> <td>Korea</td> <td>26.4</td> </tr> <tr> <td>China</td> <td>22.6</td> </tr> <tr> <td>India</td> <td>20.8</td> </tr> <tr> <td>North America</td> <td>15.1</td> </tr> <tr> <td>Europe</td> <td>13.2</td> </tr> <tr> <td>Other Asian Countries</td> <td>9.4</td> </tr> <tr> <td>Oceania</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td>Africa</td> <td>1.9</td> </tr> </tbody> </table> Hiring from North America remains limited Source: Career-tatsu, Inc., "Survey on Hiring International Students and Highly Skilled Foreign Professionals" (Dec 2021) 10/23 to 11/30/2021 report.pdf. Copyright 2021 dtc. All rights reserved.	Country/Region	Percentage	SEA	66.0	Taiwan	28.3	Korea	26.4	China	22.6	India	20.8	North America	15.1	Europe	13.2	Other Asian Countries	9.4	Oceania	3.8	Africa	1.9
Country/Region	Percentage																						
SEA	66.0																						
Taiwan	28.3																						
Korea	26.4																						
China	22.6																						
India	20.8																						
North America	15.1																						
Europe	13.2																						
Other Asian Countries	9.4																						
Oceania	3.8																						
Africa	1.9																						
【開会】	【講義】 「グローバル人材を取り巻く日本の雇用環境」																						
 KAKEHASHI Alumni Event Tuesday, February 17, 2026 Working in Japan as a JET Program ALT																							
【同窓生によるプレゼンテーション】 「JET プログラムの ALT として日本で働くということ」	【記念撮影】																						

3. 参加者から寄せられた質問・関心事項（抜粋）

◆ 【講義】「グローバル人材を取り巻く日本の雇用環境」について

- 日本の学期（セメスター）の長さはどれくらいですか？ 同じ地域ですと働くのですか、それとも異動があるのでしょうか？

◆ 【同窓生によるプレゼンテーション】について

- 今年が JET で 5 年目だとおっしゃっていましたが、毎年応募し直す必要があるのですか？ 今後のご予定についても教えてください（JET プログラムを利用してどれほどの期間滞日するつもりか、その後は何をする予定なのか）。

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 米国 大学院生

私たちが参加したプログラムは「日本で働く」というもので、とても有益で、日本国外で働くためのさまざまな機会について多くを学ぶことができました。

◆ 米国 社会人

社会学とエスニック・スタディーズを学んできた経験があったため、ハイコンテキスト／ローコンテキストのコミュニケーション・スタイルという概念にはある程度馴染みがありました。

そのうえで、JICE の講師がこれらの概念を、日本で就労を目指す外国人という具体的なケースに当てはめて説明していた点がとても良かったです。また、米国と日本が比較的強い関係を持っているにもかかわらず、日本で米国人が雇用されることがどれほど珍しいのかについては知らなかったため、提示された統計に興味を持ちました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

北米出身の方が日本で仕事をし、生活していこうと考えた時、まだまだ機会が限られているのが現状です。それでも発表後、日本企業の米国支社での就職や、日本語能力向上のためにできることについての質問が見られ、日本で働き生活することをあきらめず、現実を見据えて次の行動を考えようとしている参加者の姿がとても印象的でした。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）